第６期　新宿区多文化共生まちづくり会議 第８回全体会 議事概要

日　時　　令和6年2月6日（火）10:00～12:00

場　所　　しんじゅく多文化共生プラザ

出席委員　小林会長、伊藤副会長、金副会長、毛受委員、郭委員、ゼヤー委員、松田委員、楊委員、
安藤委員、江副委員、叔委員、立川委員、陳委員、原田委員、井上委員、宗像委員、
佐々木委員、塚本委員、山口委員　１９名

欠席委員　申委員、長谷部委員、チャン委員、李委員、奥田委員、ブサン委員、タイン委員、
コチュ委員、鈴木委員、ドゥラ委員、朴委員、センブ委員、守重委員　１３名

１　開会

２　事務局からの説明

（１）多文化共生実態調査について

（２）第5～7回会議のご意見のまとめ

３　「地域における多文化共生意識の醸成」について

事務局からの説明をもとに、委員から意見をいただいた。

・日本語を学びたいのは若者だけじゃなくて、40代、50代、60代の方も学びたい。

・高齢者の日本語学習の機会をつくり、地域のまちづくり、町会・自治会への参加もセットにするとよいと考えている。

・多文化共生連絡会では、様々な団体がイベントを紹介しており、どちらも興味深くて参加したいイベントばかりである。

・イベント運営の悩みなどを集計できるとよい。宣伝が足りないとか、ギャップを解明できるとよい。１回の参加で終わらないように、何が必要かを考えないといけない。

・子育てのイベントを企画しても情報が行き届かず、継続してきてくれる人が少ない。実態調査の結果で原因が分かるとよい。

・外国人住民に対して敬語や漢語を使っている人がいて伝わっていなかった。日本人に自覚が無いのと、やさしい日本語が普及していないと思った。

・外国人を受け入れると川口市のクルド人のような問題になると思う人もいるが、あれは難民申請中で働くことができない特殊なケースである。外国人によって、なぜ働けないのか、なぜビザなしでも入国できるかなど、メディアが伝えるべきである。

・前回調査と比べて、インターネット、ホームページ、ＳＮＳを使って情報を入手する外国人住民の方が急増しているという印象であった。
・どのように情報発信して区民に伝えているのか検証することも今後大事になると思う。
・東京なので周りに関心がなく、外国人であろうと日本人であろうと距離が遠いと感じている。
・日本人と外国人が交流して、親しくなることで、いろんな問題を話しやすくなると思う。
・駅周辺の掃除をしている。日本人が私に「ありがとうございます」「今度一緒にやりましょう」と話しかけてくれて、すごく印象がよかった。
・20年ぐらい日本に住んでいるが、ごみの捨て方は非常に分かりにくい。日本人と外国人の問題より、どのように区が説明するか、見直した方がいいと感じる。
・日本語学校は留学生のアパート探しをサポートしている。家賃が安いアパートは直接オーナーと話すので探しやすいが、高いアパートは仲介が入るうえ学生に貸していないと言われて探すのが難しい。
・日本人が外国人のことをよく分かっておらず受け身過ぎている。日本人がもっと外国人に寄り添う意識というか、イベントをやるとよいと思った。
・在留資格については、仕事に携わっていれば詳しいが、一般の人は分からない。例えば、広報紙で入管行政をクローズアップして区民に知らせることも必要と思う。
・実態調査の「近所に外国人が生活することについての考え」では「好ましい」「どちらかといえば好ましい」が高くなっており、非常にすばらしい結果だと思う。地方では、このような結果にならず、ネガティブな話や技能実習生に対する偏見の高まりを感じる。
・新宿は高度人材や留学生、起業や働いている人が多い。賑わいと活力を外国人が担っていることを区民が理解していて浸透している。
・外国人はこれから全国で増えてくる。新宿区が今まで取り組んだ経過が重要である。
・私が外国の方と仲よくできたのは子育て時代であり、子育てを通じて外国のお母さんと親しく家族同様にお付き合いさせていただいた経験がある。
・町会で、外国人が防災訓練や餅つき大会に参加しているが、高齢者の外国人はなかなかイベントに出てこられない。同じような年代の方が交流できる場が作れるように町会としても考えないといけない。
・「多文化共生のまちづくり」を知らない日本人が多い。皆に知っていただくのが大事。
・実態調査で前回との比較をしているが、変化の原因が分かるとよい。よくなったところを伸ばしていき、変わらないところは違う仕掛けを考えるとよい。
・日本人と留学生は、ゲームなど興味のある話題があると盛り上がって仲よくなる。他の世代でも、例えば旅行とか興味のある話題を提供すると交流のきっかけになる。
・新宿区は今まで様々なことをやってきて、次のステップに移りつつあると感じた。情報やイベントをどうするかではなく、相互理解のための方策を新たな切り口にすると考え方が変わると思う。
・自分が日本に来て最初に直面したのが言葉の問題。困難や悩みを先生や友達に話したが、多文化共生プ

ラザとか行政機関に話をしていたら違う視点で10代を過ごせたと思う。

・外国人専門の保健師や民生委員、相談員がいると、もっと楽しく住みやすいと思う。

・自分たちが地域で何ができるかと思ってキムチ作りをやった。日本で生きていく上で受け身ではなく、何ができるか考えて互いを理解して、一歩進めていくのが大事と考えている。

・技能実習が５年経過すると特定技能に変更でき、都心部に出る傾向がある。このため、新宿区の外国人の就労ビザの構成が２，３年後に相当変わると思う。

・新宿区は他の自治体のモデルになって研究するとよい。

・大久保地域では地域センターを中心にお祭りとかキムチ作り、パン作りなどをやっている。また。大久保通りを止めてイベントをやっているので、ぜひ参加してほしい。

・町会でも外国の方に向けた発信が少ないと思うので、今後考えていきたい。

・外国人に情報がないというが、支援金のときは外国人が一番情報を知っていて、もらっていた。

・災害時は多言語で情報発信するだけでなく、日本人に対して「近所の外国人に一声かけよう」「一緒に逃げる努力をしてください」と言うだけでも状況が変わると思う。

・ごみ出しも多言語で資料を作るのもよいが、日本人に対して「近所の外国人に親切に教えてあげよう」と知らせるだけで問題や摩擦が軽減されると思う。

・お祭りは、子どもが親を連れて集まり、つながりができる。しかし、それ以外の人の参加はなかなか難しい。

・町会や商店街でＳＮＳを使って告知したらどうかと言われても、それを外国語でなんてハードルが高過ぎる。行政で作ったものに乗っかるとよいと思う。

・外国人の高齢者の問題がすごく気になる。韓国のように大勢いればよいが、少人数の国だと高齢者が孤独になってしまう。歩み寄っていこうと思うが難しい。

４　その他

事務局から次回の開催日程を説明した。

５　閉会